

# の未来を見つめて

## 洞爺湖町 誕生10年

洞爺湖町は、合併から今年の3月で10年を迎えます。同時に洞爺湖温泉が開湯して100年という年でもあります。

新年にあたり、町内の各産業団体の代表の方に集まっていただき、誕生から10年目となった洞爺湖町の魅力と将来に向けたまちづくりについて話し合ってもらいました。

進行は、企画防災課鈴木清隆課長。

洞爺湖温泉観光協会会長



大西 英生 さん

■ 現状  
——各団体の現状はどうでしょうか。

大西 東日本大震災の年度の年間宿泊数44・4万人から50万人を目標として取り組みを進めてきた。一昨年度は60万人を超え、昨年度は各月とも前年を超え、67万人を超える

見込みである。現在の宿泊キャパシティから80万人や90万人となるのではなく、宿泊単価に見合ったサービス提供していくことを観光協会総会でも確認している。

三浦 洞爺湖温泉の旅館組合は、最盛期には20〜30の会員であったが、経営不振や景気の低迷、後継者の問題、保養所の閉鎖などで、現在は減少して13会員となっている。

宿泊客も67万人を超えるが、外国人が伸びており、国内宿泊は減少している。国内の減少分を外国人が埋めているのが現状である。オンシーズンは各旅館も9割を超えており、これまで同様であったが、最

近はオフシーズン（11月から4月）が伸びている。

問題点としては、まずは「ひと」である。高齢化の問題や若者が都会へ流出していく問題がある。「時間が長い」「給



三浦 和則 さん

とうや湖温泉旅館組合組合長  
料が安い」などの理由で人が集まらない。

大久保 町内の景気は良くない。観光業はインバウンドの増加で景気は良いが、中小零細企業は売り上げも伸びていない。事業所数も減少しており、大変厳しいと認識している。

福島 当地区の組合員は、現在48名で平均年齢59・7歳と他地区と同じく高齢化が進んでいる。

平成26年度は、基幹漁業であるホタテ養殖員が、輸出の

増加更には価格高に支えられ過去最高の水準となっている。単価は、引き続き高水準にあるが先行きは不透明な状況にある。

橋堀 農業生産は、旧洞爺村地区が主に生産しているのが現状となっている。

後継者の問題が注目を浴び、20〜30歳代のUターンによる就業もあるが、農業者の数は減少傾向で、これから先も増加は期待できないだろう。

畑作は、規模を拡大することと維持できるのではないかと考えている。

畜産も繁殖も現状は維持できているのではないかと。

酪農は、厳しい中で生産しており、政治問題もありさらに厳しい状況が続いていく。全体的に農業については、非常に厳しい状況が続いている。

これまでの家族労働が難しくなってきたり、後継者がいない農家もある。親がいるところは現状維持できるが、いなくなると離農の問題が生じる。住民が減るとパート労働を外国からの労働者に頼らざるをえなくなる。